

1 松戸市文化複合施設の検討に向けて

■ 検討の視点

本構想(案)は、図書館、アートセンター、ホール、プラネタリウム等を含む機能を想定した松戸市文化複合施設を整備するにあたり、市民アンケートや有識者懇談会による意見聴取等を通じて、本施設に関するコンセプトや機能等、大きな方向性をまとめたものです。建設場所や施設規模等、具体的な事項は文化複合施設基本計画の中で別途策定します。

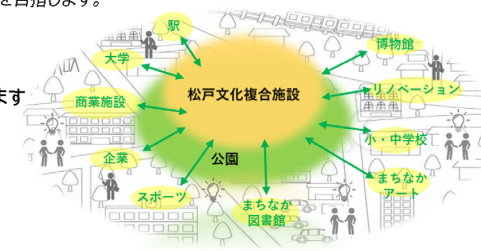
本施設では、市民が学びたいときに学べる環境づくりを目指し、4つの視点を取り入れ、本施設の求められる機能、規模、運営等について幅広く検討しています。

ー4つの視点ー

1. 学びのサードプレイス
2. 知の拠点・文化の拠点の複合化
3. 可変性・多様性・多目的な利用
4. にぎわい・地域の活性化

● 学びや活動を未来に活かし、人もまちも循環し成長しつづける未来を目指します

- ・ 学んだことや体験を生かし、自らよりよく生きていく力をつけ、地域や次世代につなげることで、人も松戸も育つ未来を目指します。
- ・ 学びや文化を次世代に継承することで、松戸の歴史や文化が地域に根差す未来を目指します。
- ・ 新しい松戸の価値や魅力を内外に発信し、持続的に成長する未来を目指します。



(イメージ図)

● まちとつながり、活動がまち全体に広がることを目指します

- ・ 学びや集いなどの活動は施設内だけでなく、公園やまちなかの様々な施設・機関・場所で展開します。
- ・ 垣根を超えた連携による人・モノ・コトの循環が、まちづくりへと波及することを目指します。

● 小さくはじめて、大きく育てる成長サイクルを目指します

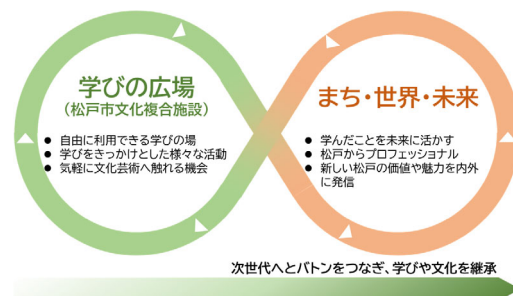
- ・ 市民参加による成長しつづける施設を目指し、試行錯誤を繰り返しながら、変化に対応していきます。
- ・ 可変性のある機能や空間づくりにより、ライフスタイルやワークスタイルの変化に対応できる施設を目指します。
- ・ 民間事業者、市民、行政などの連携・協働のもと、みんなでアイデアを出し合いながら未来に向かって進化(深化)し続けます。



(イメージ図)

2 基本理念

<基本理念>
誰もが学び、集い、つながる知の拠点
～みどりと本に囲まれた学びの広場～



変化の激しい予測不能な時代を生き抜き、自ら学び、成長する力を育み、新しい世界との出会いにより生涯を通じて学びが喜びや成長を促し、未来の松戸を担う人を育て、未来の松戸を牽引します。

● 文化芸術を通した様々な学びや交流により、学びたいときに学ぶことができる場を目指します

- ・ みどりに囲まれ、地域の誰もがくつろぎ、交流し、学習し、自由に利用できる学びの場を提供します。
- ・ 本やメディアにふれることにより、発見や気づきを得て知る喜びや楽しさにつながり、学びをきっかけとした様々な体験や活動が生まれます。
- ・ 子どもから大人まで幅広い世代が、気軽に知識や文化芸術に触れる機会を増やします。

● 多様な人と出会うことにより、新しい世界や共創の扉を開きます

- ・ 世界が広がり人生を豊かにする人と人の出会いや人と学びの機会を創出します。
- ・ 市民が大学や企業とつながり、インキュベーションを創出します。
- ・ 市民が専門家やプロと出会い、つながることで、新しい世界の扉を開きます。
- ・ 人生の様々な場面に寄り添い、よりよく生きていく手助けをします。

3 目指す施設像

図書館機能、アートセンター機能、ホール・プラネタリウム機能だけでなく、居場所・交流機能を兼ね備えたシームレスな文化創造の拠点として、市民のニーズや時代の変化に応じて成長しつづける未来志向の施設となることを目指します。併せて、公園等と一体的に利用できるように施設を目指します。

1 学びの礎となる知の集積

- 図書館機能を中心に、市民の学びや読書の楽しみを支え、付加価値の高い情報提供や多様な活動のサポートをします。

2 文化・芸術・情報のインプット・アウトプット

- 様々な学びや文化・芸術・情報に触れ、多様な体験や交流を通して自分の世界や可能性を広げることができます。
- 見たこと、学んだことを表現や創作へとつなげ、まちへ、世界へ発信することができる場となります。

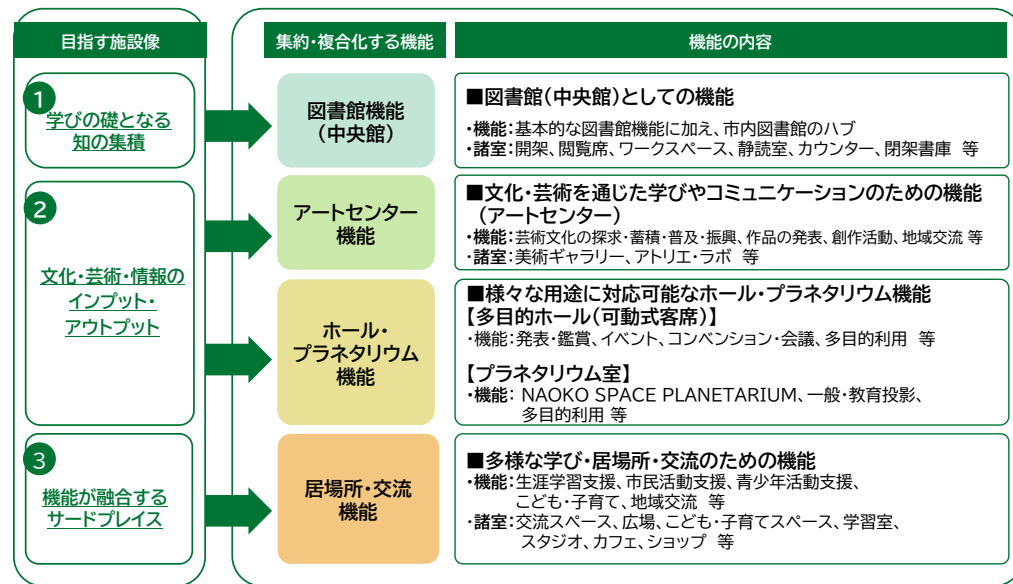
3 機能が融合するサードプレイス

- 地域の人が誰でも気軽に訪れることができるみんなの居場所としての役割を果たします。
- 図書館、アートセンター、ホール・プラネタリウムのほか、居場所・交流機能を兼ね備え、多様な機能が融合する場として、知の交流を促します。
- 機能の複合化により、学び・創造・発信がつながり、新たな価値や可能性を生み出します。



4 求められる施設機能

本施設は、図書館機能(中央館)、アートセンター機能、ホール・プラネタリウム機能、居場所・交流機能により構成され、各機能は多目的、多用途に使用できることを想定します。
各機能は、第1章や第2章で取り上げた本市の現状や他市の参考事例、近隣の施設の立地状況等を踏まえ、以下の内容を想定します。



目指す施設像

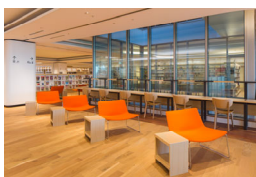
1 学びの礎となる知の集積

図書館機能(中央館)

中央図書館機能として、来館者の「目的を持った学び」と「本や情報との偶然の出合い」を大切に、楽しみながら知識や世界を広げられる図書館となることを目指します。

■図書館(中央館)としての機能

- 機能 基本的な図書館機能に加え、市内図書館のハブ
- 諸室 開架、閲覧席、ワークスペース、静読室、カウンター、閉架書庫 等
- 使い方イメージ
 - ・調べものができる蔵書とサポートの充実
 - ・思いを形にできるようなワークスペース
 - ・仕事や生活がよりよくなる出会いや発見を生む展示
 - ・オンラインやグループ学習など、多様な学び方に対応した空間
 - ・多様な人が思い思いに共存できる居心地の良い閲覧スペース



©株式会社エスエス 加藤俊史



写真提供:石川県立図書館

大和市文化創造拠点シロウス

フロアごとに異なるテーマの図書館に出会うことができ、本棚や椅子、机のデザイン・色も変えている

石川県立図書館

吹き抜け空間に円を描くように本棚が配置され、様々な閲覧席がある。

目指す施設像

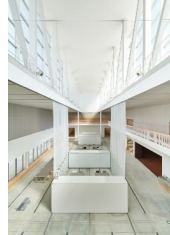
2-1 文化・芸術・情報のインプット・アウトプット

アートセンター機能

様々な学びや芸術に触れ、多様な体験や交流を通して自分の世界や可能性を広げることができます。

■文化・芸術を通じた学びやコミュニケーションのための機能(アートセンター機能)

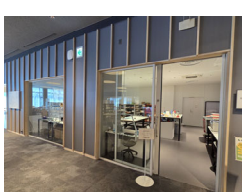
- 機能 文化芸術の探求・蓄積・普及・振興、作品の発表、創作活動、地域交流 等
- 諸室 美術ギャラリー、アトリエ・ラボ 等
- 使い方イメージ
 - ・美術ギャラリー
 - ・話題性や集客力のある展覧会を開催できる
 - ・市所蔵の美術コレクションを公開できる
 - ・制作した作品を気軽に展示できる
 - ・アトリエ・ラボ
 - ・アーティストとともに創作活動ができるオープンな場
 - ・国内外アートを通じた学びやコミュニケーションの場



©Daichi Ano

八戸市美術館

所蔵作品を実験的に展示する「コレクシヨナラボ」、市民の作品なども展示するギャラリー等、機能が異なる展示空間が存在している。※写真はシャントルーム



写真提供:長岡市

米百俵プレイスミライエ長岡

モノづくりラボには、3Dプリンターなどのデジタル機器があり、地域に開かれたものづくりプラットフォームになっている。

目指す施設像

2-2 文化・芸術・情報のインプット・アウトプット

ホール・プラネタリウム機能

見たこと、学んだことを表現や創作へとつなげ、まちへ、世界へと発信することができる場となります。

■様々な用途に対応可能なホール機能

- 機能
 - ・ホール:発表・鑑賞、イベント、コンベンション・会議、多目的利用 等
 - ・プラネタリウム:一般・教育投影、多目的利用 等
- 諸室 多目的ホール(可動式客席)、プラネタリウム 等
- 使い方イメージ
 - ・ホール
 - ・様々なスタイルの公演、発表、展示に対応できる
 - ・映像作品の展示など、最新技術を活用できる
 - ・企業の展示会などに利用できる
 - ・プラネタリウム
 - ・星空の投影を通して、自然科学や宇宙への関心を高める
 - ・寝転がって本を読むことができる
 - ・ライブやイベント開催など、多様な用途で利用できる
- ・「NAOKO SPACE PLANETARIUM」として、本市出身の山崎直子宇宙飛行士を記念し、子どもたちが宇宙への関心を身近に感じる



写真提供:シティホール&ギャラリー五反田

シティホール&ギャラリー五反田

ホールは平土間となっており、ホールとワイエはスライディングウォールで壁を自由に移動させて一体的に使うことが可能。



写真提供:コスモプラネタリウム渋谷

コスモプラネタリウム渋谷

貸館事業も行っており、プロポーズやVtuberのライブ等にも使われている。

目指す施設像

3 機能が融合するサードプレイス

居場所・交流機能

地域の人が誰でも気軽に訪れることができる、みんなの居場所としての役割を果たします。図書館、アートセンター、ホール・プラネタリウムの各機能が連携する場として、知の交流を促します。

■多様な学び・居場所・交流のための機能

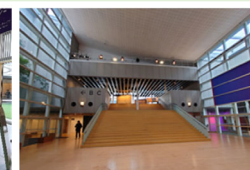
- 機能 地域の人が誰でも気軽に訪れることができるみんなの居場所機能 等
- 諸室 交流スペース、広場、子ども・子育てスペース、学習室、スタジオ、カフェ、ショップ 等
- 使い方イメージ
 - ・地域の人が誰もが気軽に訪れることができるみんなの居場所
 - ・自由に本を読んだり、学習したり、おしゃべりできる交流スペース
 - ・図書館やプラネタリウムなどで学んだことを発表、表現できる広場
 - ・市民活動や生涯学習、地域交流などに使えるスペース
 - ・子どもや親子が安心して楽しく遊べる子ども・子育てスペース
 - ・仕事や学習、作業に利用できる学習スペース
 - ・演奏やダンス、料理や工作ができるスタジオ
 - ・みどりを感じながらゆったりくつろげるカフェ
 - ・市の名産品やアート作品を購入できるショップ 等



撮影:松戸市

茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

開放的な空間で、活動の打ち合わせや準備、イベントや講座開催に利用できる。



撮影:松戸市

山口情報芸術センター YCAM

天井の高さを活かした展示を行うこともあるフレキシブルな場所となっている。

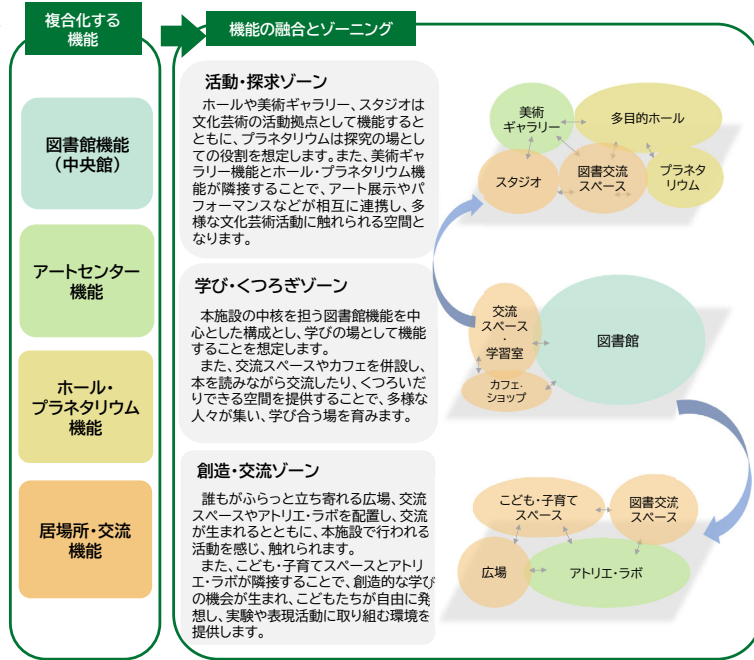
5 機能が融合する効果的な配置・ゾーニング

■ 機能の融合とゾーニング

・各機能を親和性が高いものごとにとまとめ、「活動・探求」「学び・くつろぎ」「創造・交流」の3つのゾーンに整理しました。

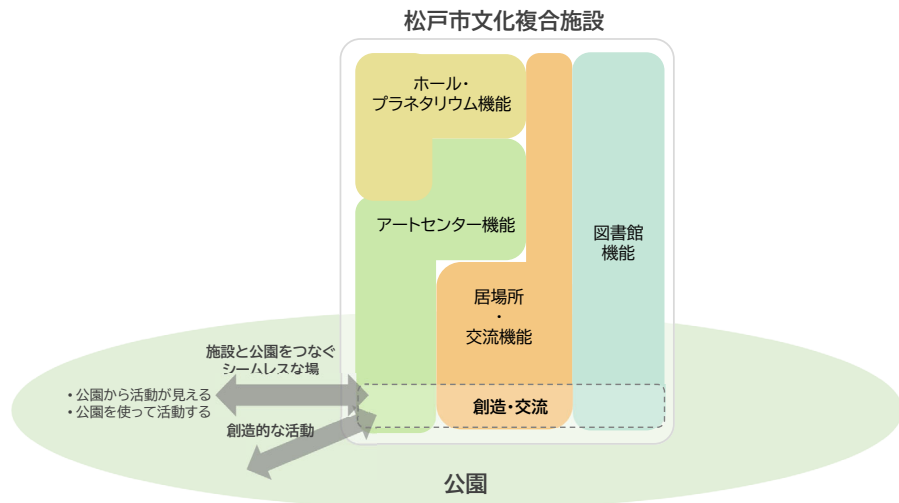
・どの場所においても本と出会えるよう、すべてのゾーンに図書を配置しています。気になる本をすぐに手に取れるだけでなく、思いがけない本との出会いが新たな興味や発見につながります。

・居場所・交流機能が、図書館、アートセンター、ホール・プラネタリウムなどの各機能と隣接することで、各機能の利用の幅が広がり、新たな価値や可能性が生まれ、複合施設としての魅力が高まります。



■ 公園との連携・融合

- ・本施設は、地域の人が誰でも気軽に訪れることができるみんなの居場所であり、多様な機能の融合・交流を通じて、新たな価値の広がりを生み出しやすい環境を目指すことから、公園・広場等と融合し、一体的な憩いとにぎわいの創出を目指します。
- ・低層階にアトリエやラボ、広場などの創造・交流を生み出すシームレスな場を設けることで、公園との垣根を無くし、アクティブで多様な活動を促すことができます。
- ・公園側からも本施設で行われている様々な取り組みや活動に触れやすくなり、公園に訪れる人たちが、気軽に立ち寄り、くつろぎ、交流や活動につながりやすくなります。



6 機能の詳細と規模のイメージ

■ 機能の詳細

本施設のコンセプトを実現させるための規模のイメージについて検討するにあたり、施設の機能について、第1章や第2章で取り上げた本市の現状や他市の参考事例、近隣施設の立地状況等を踏まえ、検討しました。

		機能	機能の根拠
個別機能	図書館機能(中央館) 【A】	・蔵書数：60万冊 ・開架・閲覧席 ・静読室・カウンター ・閉架書庫・事務室	・蔵書数は、松戸市総合計画の重要業績評価指数（KPI）の目標値（一人あたり2.4冊、50万人で120万冊）から、地域館、分館の蔵書数をもとに設定 ・開架30万冊、閉架30万冊を想定 ・規模は、蔵書数等をもとに文化複合施設に併設された図書館の事例をもとに設定
	アートセンター機能 【B】	・メインギャラリー、市民ギャラリー ・バックヤード（事務室含む） ・ラボ・アトリエ	・メインギャラリーは国内の巡回展の開催を想定 ・バックヤードは参考事例や専門家ヒアリングをもとにアートセンターの30％程度を想定
	ホール機能 【C】	・多目的ホール：300－600席 ・ホール控室 ・事務室	・コンベンションホール、サテライトキャンパスなど、固定席ではなく平土間に可動式の座席設置も想定 ・ホワイエ部分は他の機能と共用
	プラネタリウム機能 【D】	・プラネタリウム室：100席 ・機材室・事務室	・席数は、既存施設及び類似複合施設の事例から算出 ・規模は、席数と他の施設事例からドーム直径約15mと想定 ・ホワイエ部分は他の機能と共用
	居場所・交流機能 【E】	・各個別機能（A～D）の居場所・交流機能 ・広場、ホワイエ、デッキ等 ・こども・子育てスペース（事務室含む） ・多目的スタジオ、会議室 ・ワーキングスペース ・カフェ、ショップ等	・個別機能の合計面積の40％程度を想定 ・居場所交流機能は、施設全体の可変性、多様性・多目的な利用を実現させるための機能として想定 ・面積や内容は、懇談会の議論をもとに想定
その他	共用部	・エントランスホール、EV、廊下、階段、トイレ等	・レンタル率は、施設全体約30％を想定
	駐車場	・最大100台	・附置義務条例では、対象施設200㎡あたり1台必要

■ 規模のイメージ

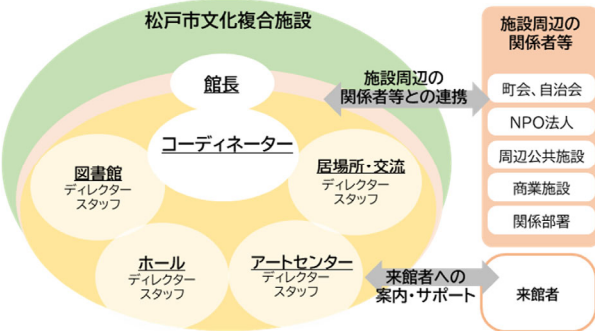
施設全体の規模は、先に示した機能を全て実現すると、本施設と類似機能を持つ他市の参考事例等から、20,000～25,000㎡となります。

施設名	延床面積	各機能			
		図書館機能	アートセンター機能	ホール・プラネタリウム機能	居場所・交流機能
大和市文化創造拠点シリウス(神奈川県大和市)	26,003.33㎡	・中央館機能(約44万冊) ・レファレンスカウンター ・地域資料コーナー ・点字図書室、対面朗読室、 ・読書室 ・こども図書館	・ギャラリー ・文化創造室	・ギャラリー(1007座) ・サブホール(272座) ・楽屋	・市民交流ラウンジ ・テラス(読書テラス含) ・ちびっこ広場 ・保育室・相談室 ・スタジオ ・調理実習室・会議室・講習室等 ・カフェ
せんだいメディアテーク(宮城県仙台市)	21,682.15㎡	・中央館機能(約58万冊) ・相談カウンター ・閲覧席、グループ閲覧室 ・おはなしのへや ・映像音響ライブラリー	・ギャラリー(5室) ・荷解室、控室	・オープンスクエア(多目的ホール300座) ・スタジオシアター(180座)	・ラウンジ ・プロジェクトルーム ・ホワイエ ・託児室、授乳室 ・会議室・スタジオa,b,c ・ワーキングスペース ・カフェ・ショップ
茨木市文化・子育て複合施設おにクル(大阪府茨木市)	19,715.22㎡	・分館機能(約10万冊) ・えほんひろば ・おはなしのいえ	・オープンギャラリー ・クッキングラボ	・大ホール(1201座) ・多目的ホール(245座) ・楽屋、リハーサル室 ・プラネタリウム(56座)	・市民活動センター ・屋上広場等 ・子ども支援センター ・一時保育室 ・会議室・多目的室 ・音楽スタジオ ・ワーキングスペース ・カフェ
(仮称)松戸市文化複合施設【本施設】	20,000㎡～25,000㎡	・中央館機能(約60万冊) ・開架・閉架 ・閲覧席、静読室 ・カウンター等	・アートセンター ・メインギャラリー ・市民ギャラリー ・ラボ・アトリエ ・バックヤード	・多目的ホール(300～600座) ・控室 ・プラネタリウム(100座)	・広場、ホワイエ、デッキ ・こども・子育てスペース ・多目的スタジオ ・会議室 ・ワーキングスペース ・カフェ・ショップ

7 コンセプト実現のための運営の考え方

「一貫したクオリティコントロール」と「機能間の融合・相乗効果」を促進する施設運営が求められます。施設全体を統括する館長、各機能を横断して調整を行うコーディネーター、各機能の責任者であるディレクターを中心とした運営体制を検討しました。

■ 運営体制のイメージ図

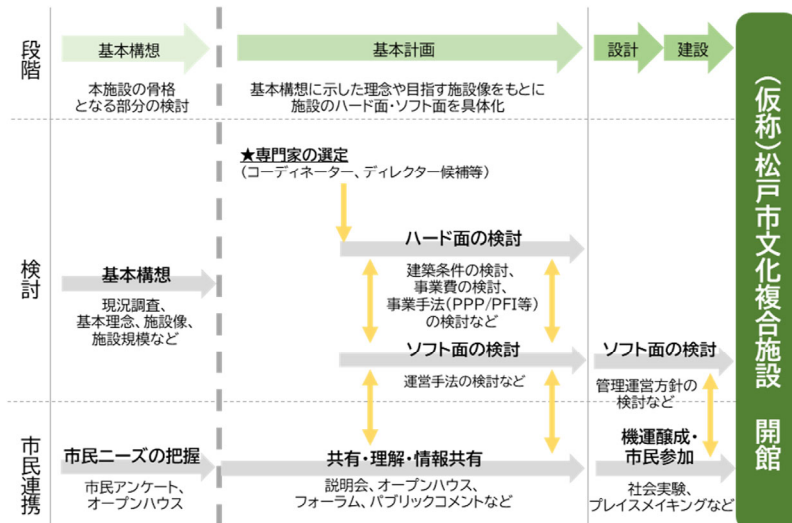


■ 各担当の役割

館長	施設の代表者として、基本理念や目指す施設像の実現に向けて、施設全体のクオリティコントロールを実施するとともに、地元や周辺施設、市と積極的にコミュニケーションを図り、調整役を担います。
コーディネーター	施設全体の調整を担う立場として、図書館、アートセンター、ホール・プラネタリウム、居場所・交流の各機能に関与し、横断的な調整を行います。また、施設全体の運営方針を統一し、各機能間の連携を促進します。
ディレクター	各機能の責任者として、方針の策定やイベント・プログラムの企画・実施を担当し、各機能のクオリティコントロールやスタッフの管理を行います。
スタッフ	各施設の運営を支える実務担当者として、ディレクターと連携し、イベント・プログラムの企画・実施や来館者への案内・サポートを行います。

8 実現に向けたロードマップ

基本計画段階から館長、コーディネーターが関与し、計画の策定に関与させることで実効性の高い計画を策定します。開館前から市民参加を促し、主体的な関わりを育むことで、施設の理念と目標を実現します。



9 今後に向けた留意点

基本理念や目指す施設像の実現に向けた検討は、今後も続いていきます。今後の検討に向けて、次の点に留意し、進めていきます。

● 公共施設再編の視点

本施設の建設予定地の松戸駅周辺においては、老朽化が進み、大規模改修や建て替えが見込まれる公共施設もあります。新拠点ゾーンのまちづくりの進捗や松戸駅周辺の公共施設再編とともに、本施設の検討を進めてまいります。

● 市民参画の推進

価値観や考え方が変わっていく中で、基本理念や施設のコンセプトは市民の意見を組み込み、柔軟に更新していく必要があります。本施設が、市民の皆様が心から楽しんで来場し、笑顔にあふれ、何度でも来たいくなるような施設を目指していくため、引き続き、市民の皆様とともに、基本理念や施設のコンセプトを考え、ブラッシュアップを進めていく必要があります。また、本施設をよりよくしていくための社会実験についても、市民の皆様とともに積極的に行ってまいります。

● コーディネーター、ディレクターの選定

先ほどのロードマップに示したとおり、将来の運営を担うコーディネーターやディレクターを選定し、計画の策定に関与させることで、運営面を考慮した実効性の高い計画を進めてまいります。

● 防災機能の視点

「新拠点ゾーン整備基本計画」に記載の防災拠点としての機能が求められていることに応じて、文化複合施設としての機能と役割を考えてまいります。

● 公民連携(Public Private Partnership)の推進

「新拠点ゾーン整備基本計画」を踏まえ、本施設においても、PPP等を検討し進めてまいります。